

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 21 日現在

機関番号：82602

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380836

研究課題名(和文) 地域包括ケアに向けた保険者およびケア人材の機能強化プロセスに関する研究

研究課題名(英文) Study on development of enabling roles of public long-term care insurers(municipalities) for building a community-based integrated care system

研究代表者

森川 美絵 (MORIKAWA, MIE)

国立保健医療科学院・医療・福祉サービス研究部・主任研究官

研究者番号：40325999

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、地域包括ケアの推進にあたり課題となる保険者および地域人材の機能について、地域の事例を対象に実態と機能強化プロセスを把握・分析することを通じ、機能強化のモデルを提示することを目的とする。研究期間は2013～5年度の3年間である。日本の地域包括ケアに関する政策展開を、国際的な統合ケアの文脈において整理できた。また、自治体の保険者としての「ケア統合」の機能とそれを支える人材のありかたについても試行的な整理ができた。さらに、自治体の地域包括ケアシステム構築の方法論に関する概念的整理がなされ、それに基づき今後深められるべき研究課題に関する示唆が得られた。

研究成果の概要(英文)：This study aims to analyze the development process of the enabling roles played by public long-term care (LTC) insurers (municipalities) for building a community-based integrated care system, and to understand this process in the context of international trends in health care reforms. We have successfully published a paper that elucidated Japan's national policy trend toward community-based integrated care in relation to the concepts of integrated care and community-based care, the agenda of cost containment and service streamlining, and medical care, with a consideration of international trends in health care reforms. In addition, given the results of qualitative case studies on long-term care administration at the municipal level, we have identified the several phases of building a community-based integrated care system by a local government to outline the framework for each phase of the system building process. The framework outlines the issues to be addressed in future research.

研究分野：社会福祉学

キーワード：介護 統合ケア 日本 地域ケア 人材 保険者 コミュニティ 政策

1. 研究開始当初の背景

日本の介護・医療政策は、地域包括ケアの実現を今後の方向性として打ち出した。地域包括ケアシステムは、介護、予防(保健)、医療、生活支援、住まいの5つのサービスを一体的に提供するという考え方を基本としつつ、各地域の高齢者や高齢者を取り巻く地域事情・特性を反映したローカルなサービス提供システムである。これは、ケアの統合に関する国際的な潮流をふまえると、統合ケア(integrated care)と地域に根差したケア(community based care)という異なる側面の同時達成を目指す、国際的にもユニークな取り組みといえる。第5期介護保険事業計画(H24~H26)の策定では、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、能力に応じて自立した日常生活を営めるよう、「地域包括ケアシステム」の構築が求められている。自治体には、設定した地域圏域に相応しいシステムの構築が求められている。それは、単に地域包括支援センターを設置すれば実現するものではなく、保険者として日常生活圏域単位でのニーズの把握とビジョンの設定、ビジョン実現にむけた社会資源のマネジメント能力が、強く問われるようになったと言える。

このように、近年、介護保険制度の保険者として自治体が果たす機能の重要性が増している。他方で、自治体が、そうした機能をどの程度理解しているのかを懸念する声もある。保険者機能の評価項目の開発も着手されつつあるが(笹井肇他2012,筒井・東野2012)、保険者機能が強化されるプロセスや戦略・方法・要因は、必ずしも明らかではない。

また、保険者には地域のケアのパフォーマンスを評価するスキルが求められる。近年の急速な電子化の進展のもと、医療・介護をはじめとする膨大な行政データを、保険者としての自治体がどのように地域包括ケアシステムの効果的運営や評価に活用しうるかも課題となる。

さらに、地域包括ケアの実現には、それを支えるケア人材が不可欠である。包括ケアの日本人的特徴をふまえた時に求められるケア人材の開発のあり方や、それらへの保険者の関与に関する実態把握や方法論の開発も、十分ではない。

地域を単位とする保険者機能と人的機能の強化に関するモデル提示は、国際的な統合ケアの理論に新たな知見を提供するものとなる。

2. 研究の目的

本研究は、地域包括ケアの推進にあたり今後の課題とされている保険者および地域人材の機能について、いくつかの地域の事例を対象に実態と機能強化プロセスを把握・分析することを通じ、機能強化のモデルを提示することを目的とする。地域での包括的ケアの発展・再生産に資する保険者や人材の機能の開発・強化の方法論は未開拓であり、本研究は、その方法論のモデル構築に資する。

3. 研究の方法

研究期間は2013~5年度の3年間である。一年次は、日本の事例の相対化という観点からの統合ケアの先行研究レビュー、日本の事例検討の理論フレームの精緻化を行う。A自治体からの協力を得て、自治体の地域包括ケア担当セクションおよび地域包括支援センター等へのヒアリングを実施し、保険者や一部の主要なステークホルダー(地域包括支援センターの責任者等)の活動の概要把握を行う。その上で、強化対象とする保険者機能・ケア人材の機能の候補抽出を行う。

二年次は、事例対象自治体について、機能強化にむけた取り組みの定期的モニターを行った。また、強化対象として抽出したケア人材に関して、事例対象自治体および協力の得られた自治体から、その実践・役割の把握を行う。

三年次は、強化される機能の特徴を抽出し

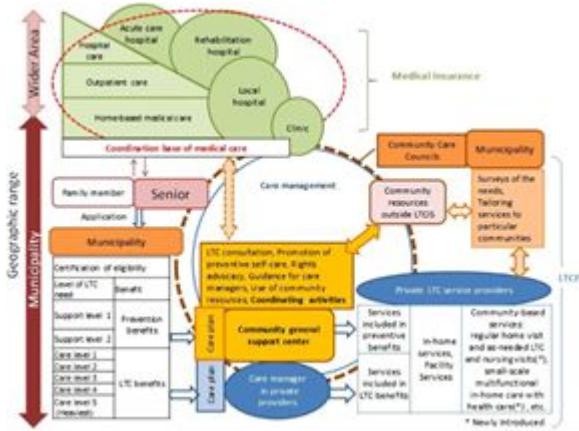
た。年度後半には、研究総括として、地域包括ケアの実現にむけた保険者および人材の機能強化のモデルの提示を行う。

4. 研究成果

計画即して研究を行い、一定の学術的成果を上げた。

一年次には、日本の状況を相対化する観点から日本の地域包括ケアに関する政策展開を整理し、国際誌に投稿・受理された（整理の例：図1）。

図1 介護保険制度改革をふまえた地域包括ケアシステムの概要



二年次には、事例となった自治体のモニターや追加的な自治体へのヒアリングを行うことで、必要なデータを収集した。それに基づき、保険者としての「ケア統合」の機能とそれを支える人材のありかたについても試行的な整理を試みた（整理の例：図2）。

最終年度は、これまで実施してきた自治体や関係者へのヒアリング調査の結果を整理し、自治体の地域包括ケアシステム構築プロセスの方法論について概念的整理を行った。主要局面は、領域横断的な計画策定、総合相談支援体制の構築、臨床実践における専門的ケアと互助資源との統合、包括ケアの評価、に整理した（図3）。

図2 保険者機能の強化要素

地域包括ケアシステム実現にむけた保険者機能の強化要素 【フォーマルケア・インフォーマルケアからのフレーム整理】

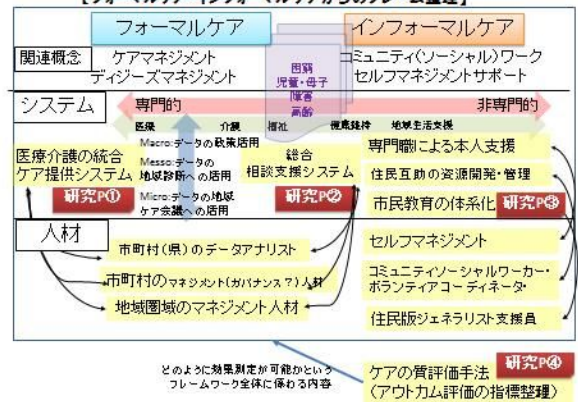
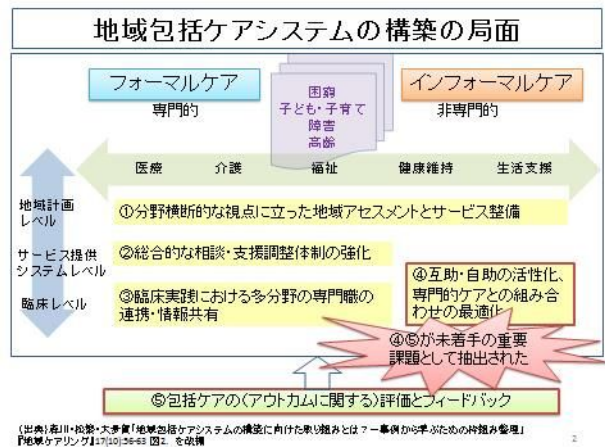


図3 地域包括ケア構築の主要局面



このうち、「臨床実践における専門的ケアと互助資源の統合」「包括ケアの評価」の局面については、実現にむけた課題が大きいことが示唆された。それぞれについて、以下のような課題と対応した研究の展開の必要性が示唆された。

「臨床実践における専門的ケアと互助資源との統合」については、地域資源情報・互助資源を把握し個別支援に接合する情報の管理活用のシステム化が課題となっている。このシステム化と実践を結びつける方法論の構築が、今後の社会福祉研究の展開として必要とされている。

「包括ケアの評価」の局面については、社会的ケアを含む包括ケアのアウトカム指標の設定とそれらの地域包括ケアシステムの

運営への応用についての方法論が現場には不足しており、今後の研究開発の必要性が示唆された。この点は、統一化された「ケアのアウトカム評価の体系的枠組み」に基づく調査データからの評価分析が行われているイギリスの事例が参考になり、今後、こうした事例分析を含めた研究を展開していく必要がある。これらの課題については 2016 年度以降の科学研究費補助金にて継続して取り組む（採択済）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 6 件)

Morikawa M. Toward community-based integrated care: trends and issues in Japan's long-term care policy. International Journal of Integrated Care, [serial online] 2014 :14 (2014 Jan-Mar).

Morikawa M. Problematic issues concerning social investment strategy in elderly care: implications from the case of Japan's long-term care policy. Social Policy and Labor Studies 2014: 5(3):113-25.

森川美絵．社会政策におけるケアの労働としての可視化:介護労働の評価からみた介護保険制度の課題．社会政策 2014 ; 5 (3) : 25-37 .

Morikawa M. Are Problems of Underrecognition and Devaluation of Care Work Being Resolved?: Japanese Policy Experience and Prospects for Securing the Long-Term Care Workforce. Taiwanese Journal of Social Welfare (TJSW) 2014; 12(1): 35-64.

森川美絵，松繁卓哉，大野賀政昭．地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みとは？：事例から学ぶための枠組み整理．地域ケアリング 2015 ; 17(10) : 56-63 .

森川美絵．福祉介護分野から：多職種多分野連携による地域包括ケアシステムの構築．第保健医療科学 ; 2016: 65 (1) : 16-23

〔学会発表〕(計 8 件)

森川美絵．社会政策におけるケアの労働としての可視化—介護労働の評価からみた介護保険制度の課題．社会政策学会 第 126 回 (2013 年度春季) 大会 共通論題「ジェンダー平等と社会政策」: 2013 年 5 月 ; 東京都渋谷区 ; 報告要旨集 12 .

Morikawa M. Japanese Policy Experience and Prospects for Securing the Long-Term Care Workforce: Are Problems of Underrecognition and Devaluation of Care Work Being Resolved? 2014 Taiwanese Association for Social Welfare (TASW) Annual Conference Panel Presentation, A Comparison of the Long-Term Care System in Taiwan and Japan: Human Resources and Institutions. National Chung Cheng University, Chia-Yi, Taiwan, May 23-24, 2014.

Morikawa M. Issues in Community Care Settings: What are the context and implications of national policy trends in the Community-Based Integrated Care system for the local governance of care in Japan? International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) and the Federation of Korean Gerontological Societies (FKGS) International Workshop on CONTINUUM OF CARE FOR OLDER PERSONS. Press Center, Seoul, Korea. June 26, 2014.

Morikawa M. Performance of Japanese Long-Term Care (LTC) Benefit of the Last Decade Under the Development of National LTC Policy. Korea Institute for Health and Social Affairs International Conference on Long-Term Care Policy of Korea, Germany and Japan. Koreana Hotel, Seoul, Korea, November 13, 2014.

森川美絵．地域包括ケアと NPM . 福祉社会学会第 45 回研究セミナー ; 2015.3.14 ; 東京都文京区 (東洋大学) .

森川美絵．福祉介護分野から：多職種多分野連携による地域包括ケアシステムの構築．第 74 回日本公衆衛生学会総会 ; 2015.11.4-6 ; 長崎．抄録集シンポジウム 21 .

森川美絵．アウトカム評価にもとづく地域包括ケアシステムの運営にむけて—イギリス ASCOF・ASCOT からの示唆 (自由集会「地域包括ケアに向けたエビデンス—市町村でどう作り、どう活用するか」報告) . 第 74 回日本公衆衛生学会総会 ; 2015.11.4-6 ; 長崎．抄録集シンポジウム 21 .

森川美絵．高齢者ケア政策「地域包括ケアシステム」の多様性をどのように受け止めるのか．2015 年度社会理論学会研究例会 ; 2016.3.26 ; 東京都豊島区 (学習院大学) .

〔図書〕(計 1 件)

森川美絵．介護はいかにして「労働」となったのか—制度としての承認と評価のメカニズム．京都：ミネルヴァ書房；2015 . p.1-338.

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1)研究代表者

森川 美絵 (MORIKAWA, MIE)

国立保健医療科学院・医療・福祉サービス研究部・主任研究官

研究者番号：40325999

(2)研究分担者

松繁 卓哉 (MATSUSHIGE, TAKUYA)

国立保健医療科学院・医療・福祉サービス研究部・主任研究官

研究者番号：70558460

(3)連携研究者

深田 聡 (FUKADA, SATOSHI)

国立保健医療科学院・医療・福祉サービス研究部・上席主任研究官（2014年度まで）

研究者番号：80527995

熊川 寿郎 (KUMAKAWA, TOSHIRO)

国立保健医療科学院・医療・福祉サービス研究部・部長（2013-14年度）・主任研究官（2015年度）

研究者番号：10221227

岡本 悦司 (OKAMOTO, ETSUJI)

国立保健医療科学院・統括研究官

研究者番号：90247974

平塚 義宗 (HIRATSUKA, YOSIMUNE)

国立保健医療科学院・医療・福祉サービス研究部・上席主任研究官（2013-14年度）

順天堂大学・医学部・大学院医学研究科・専任准教授（2015年度）

研究者番号：80266014

大坪 浩一 (OTSUBO, KOICHI)

国立保健医療科学院・医療・福祉サービス研究部・主任研究官（2013年度まで）

研究者番号：80248559